

「いじり」について

出雲市立第一中学校 三年 亀岡柑那

みなさんは、「いじられキャラ」について、どのような印象を持ちますか？「愛されている」などというプラスの印象ですか。「いじめと変わらない」というマイナスの印象ですか。「いじる」という行為で楽しい気持ちになっている人もいるかもしれませんが、つらい思いになっている人が多いと思います。

私自身、うっかりしていることが多く、幼いころからよくいじられていました。最初嫌だったのですが、いじられることによって、周りの人が笑顔になっていて、「いじめ」じゃないからいいかなと受け入れるようになりました。「いじめ」は良くないけど、「いじる」ことは誰かを傷つけないからいいと思うようになったのです。

その考えが変わったのは、中学一年の頃でした。この頃からだんだんといじりがひどくなっていく気がしていました。

「お前がいない方が楽しい」

「お前の近くの席とか死にそう」

本当は、このようなことを言われてつらかったのですが、今まで受け流してきた経緯から、「嫌だ」と伝えにくくなっていました。また、私自身も、相手に対して度を越したいじりをしてしまい、傷つけることがありました。自分の中で、「いじり」と「いじめ」の境界線がわからなくなっていたと思います。このままではだめだと思い、嫌だと思ったらきちんと相手に伝えようと思いました。私が嫌だったことを伝えると、

「お前は傷つかないと思っていた」

と驚かれました。でも、きちんと謝ってくれました。

そもそも、「いじり」と「いじめ」は何が違うのでしょうか。あるサイトによると、「いじめ」は相手にダメージを与えることが目的で、「いじり」は、本来、相手や場を助け、関係をよりよくすることが目的だそうです。そして、二つの決定的な違いは、「いじり」は相手と対等な立場で行われ、「いじめ」は相手と上下関係ができてしまっているというところで、相手がつらく感じたり、見下したりするためにやってしまえば、それは「いじめ」になってしまうということです。そのサイトにはそのように示されていましたが、人の感じ方は様々なので、対等な関係の中でも、相手がつらく感じることはあるかもしれません。その人がどう思うかが大切で、「いじめ」と「いじり」の線引きは難しく、「いじり」はどこで「いじめ」につながるかわからないと思いました。相手を尊重し、相手の立場になって考え、自分が同じ言動をされたらどう思うかを考えることが大切だと思います。

「いじり」と「いじめ」について考えましたが、みなさんも「いじり」についてしっかり考えてほしいです。今後も、自分の周りの人との関わり方を見つめ、相手の立場に立って考えることを忘れないようにして、より仲を深めていきたいと思います。